

研 究 分 野	生態系	部 名	調査普及部
課 題 名	外来魚被害対策事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 10～H. 19		
担 当	木村 大		
協力・分担関係	おいらせ町、小川原湖漁協、東北町		

〈目的〉

内水面の有用魚種等に悪影響を与えるブラックバス等外来魚について、生態調査及び駆除指導等を実施し、漁業や在来生態系の被害軽減及び分布拡大防止を図る。

〈試験研究方法〉

外来魚被害対策事業で外来魚の駆除に取り組んでいるおいらせ町と小川原湖漁協に対し駆除指導を行うとともに、捕獲したオオクチバス、ブルーギルの魚体測定（全長、体重、生殖腺重量、胃内容物等）を行い、時期別体長組成や成熟状況、食性等を把握した。また、七戸町和田ダムにおいて、外来魚の生息状況調査に協力した。

〈結果の概要・要約〉

1. おいらせ町根岸堤

5月28日から9月14日までの期間、延縄、釣り、刺網、持網等により、ブルーギル2,429尾、オオクチバス1,677尾が捕獲された。そのほとんどは全長10cm以下の小型魚であり、ブルーギルの成魚である全長14cm以上の個体は5～6月に見られ（図1）、20cm以上のオオクチバスは5～8月に捕獲されたがその数は少ない（図2）。

ブルーギル成魚の生殖腺指数（図3）は、6月上中旬に最大値を示し、この時期の卵巣には透明卵が認められ、また雄の成熟個体も見られており、この時期がブルーギルの産卵期であり、8月上旬には全長22mmまで成長した稚魚が多数分布していた。

オオクチバスでは、6月11日に全長18mmの稚魚が採取され、また5月下旬～6月上旬のブルーギルの胃内容物に魚卵が見られており、5月上・中旬頃が産卵期と推定された。

これらの結果から、5～6月刺網等による親魚駆除、稚魚が密集する時期（ブルーギル8月、オオクチバス6月）の持網による駆除や餌料昆虫が少なくなる8月以降の釣による駆除が効率的な方法と考えられた。

2. 小川原湖

小川原湖及び周辺水域でのオオクチバス捕獲尾数は、平成13年の1,100尾以降減少し、昨年は459尾の捕獲に止まっていたが、本年度は1,952尾が捕獲（表1）され、特に姉沼では9～11月を中心に1,563尾が採捕された。過去の調査ではオオクチバスの産卵や稚魚の出現が確認されておらず、姉沼上流域から流下したものと考えられるが、今後、姉沼での捕獲状況の推移や、上流域での分布、再生産状況を調査する必要がある。

3. その他

9月29日七戸町和田ダムにおいて、七戸川内水面漁協等関係者と刺網によるオオクチバス生息調査を行った結果、採捕された魚類はヤマメ、イワナ、フナ、ウグイであり、オオクチバスは捕獲されなかった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

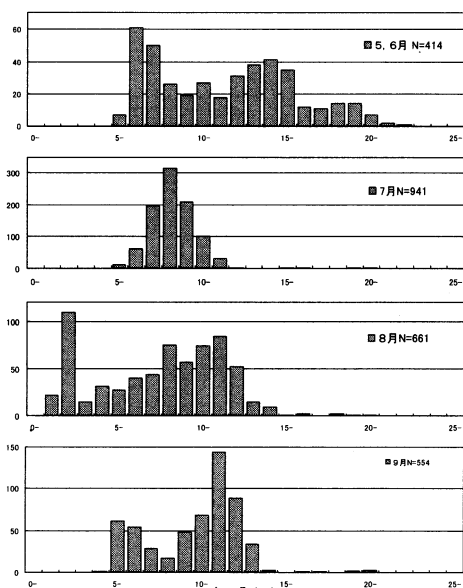


図 1 根岸堤ブルーギル全長組成 (2007)

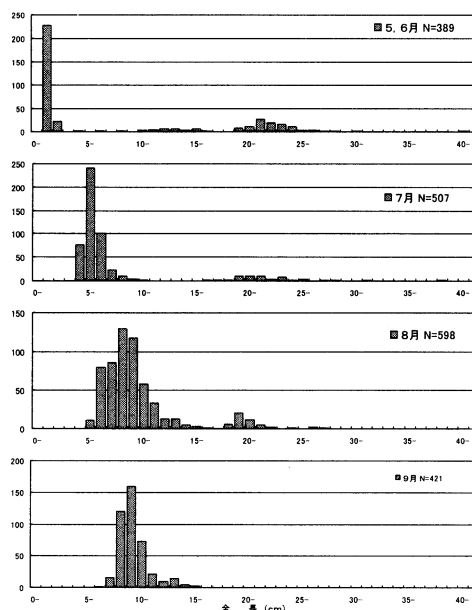


図 2 根岸堤オオクチバス全長組成 (2007)

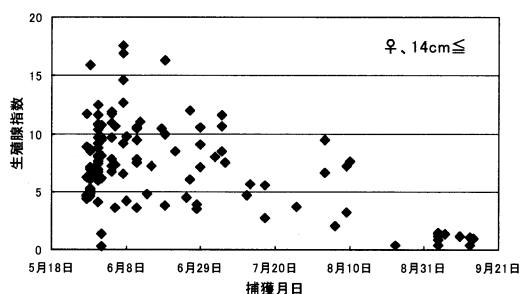


図 3 ブルーギル生殖腺指数の推移(根岸堤)

表 1 オオクチバス地区別捕獲状況(小川原湖、2007)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内 沼	4							7		11
田ノ沢-浜台	1					2				3
七戸川周辺	41			13	4	1	30	33	25	147
八甲温泉						100	39			139
砂土路川周辺			2			12	18	6	3	41
姉 沼		3	2		95	804	431	228		1,563
湖水浴場周辺		3	13			6	5	11	3	41
その他								7		
合 計	46	6	17	13	99	925	523	292	31	1,952

〈今後の問題点〉

- ・おいらせ町根岸堤：外来魚の分布拡大防止には継続的な駆除が必要だが、県の補助事業が終了するため、事業の継続が困難となっている。
- ・小川原湖：今年度捕獲尾数が増大した姉沼における原因調査と分布域拡大防止対策の検討。

〈次年度の具体的計画〉

事業実施地区への協力、指導を実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

関係者に調査結果を報告した。